

製造・ソフト

デザインでイノベーション
リタウトがセミナー開催
特定非営利法人リタウトは12月21日、1月18日、25日、2月1日(前橋市南町)は12月1月8日、22日の5日間、中

「イノベーション」を聞く。
同プログラムは、既存のニューサーをファンに変え、強いブランドを築くための商品価値の高め

雨水タンクを開発

ぐんま経済新聞

2011/11/17発刊

富岡の萬水

管工事の萬水 富岡市下高尾519-1、萬水万寿夫社長(0274-631-1539)は、このほど、蒸がわかず、常時きれいな水が確保できる独自の雨水貯留槽「スーパー満水」を開発した。雨水タンクを光の届かない地中に埋め、藻の繁殖を防いでいるほか、タンク内部に特許出願済みの独自の機構を採用。水の対流を作り出し、汚れを除去しつつ、きれいな水を生産・貯留する。生成水はトイレ洗浄や庭の散水、洗濯などに活用できるほか、災害時の緊急用水にも最適。東日本人震災以降、こうしたニーズは高まっており、一般住宅のほか、避難所の指定施設などへの需要を見込んでいる。

対流作り出し汚れ除去

避難所施設などに提案



萬水社長 渡辺 昌博

か、近年は結露による凍結を結集し、開発したもので、光を通さず内部の藻の繁殖を防いでいるほか、最大の特徴はタンク内部に自然の対流を生み出していること。こうした事業展開のめざすところは、防災対策として、避難所施設などに提案すること。研究を進めてお



タンクはFRP製で1〜3mタイプまでの3種類

雨が降ると水が溜まり、タンクに貯留されるが、水が落ちてくる高さ、タンク底に設置したポンプで水を汲み上げ、タンク上部に設置したフィルターでろ過し、タンク外部に排出

月曜にザスパの話題を!

富士ゼロックス群馬 植木社長らが講演

創設30周年記念事業として「元気な群馬」をテーマとした講演会が、11月14日(月)午後7時から、群馬県庁(高崎市)で行われた。植木社長は「ザスパの歴史をひもとくパネルディスカッション」を、元日本代表の植木伸幸氏を交えて、ザスパの歴史について講演した。

高崎の小林製作所

依然復旧作業が続く福島第一原発。過酷な作業環境下で、欠かせないアイテムの一つとして防護マスクが求められるが、このマスクのバンド部品を量産し、現場作業員を支えている県内企業がある。小林製作所(高崎市阿久津町1233、小林秀晴社長027-346-5252)だ。取引先を通じて、早期せぬ急激な需要が押し込まれたのは震災直後のこと。以降10月までに10数万セットを納品し、現在は一段落の状況にあるが、小林社長は「極限の中での対応により、会社として経験値が上がった」と振り返る。

同社は1948年創業の発生源の3月16日、取引先から、別の部品、月1万個の注文が来た。小林社長は「この注文は、震災直後の注文で、非常に重要な注文だった」と振り返る。小林社長は「この注文は、震災直後の注文で、非常に重要な注文だった」と振り返る。



納期に追われ、加工データを仲間の工場に送ったことも

震災直後、防護マスク部品を量産



10月末までに10数万セットを納品したバンド部品

混乱の中、必死の対応

タンク系も当初の感想は「下ライ時の不良率は約2割、うち4割は約2割の無理由もない」(小林社長)といふこと。だが、その改善していくのが同社の競争力の源泉であり、改善を重ね、うまく成形できるよ

原発作業員 影ながら支える
小林社長は「この注文は、震災直後の注文で、非常に重要な注文だった」と振り返る。

納期に追われ、加工データを仲間の工場に送ったことも

12月に、小林社長は「この注文は、震災直後の注文で、非常に重要な注文だった」と振り返る。

売上、利益過去最高

ハルナグループ 12年第2四半期 ミネラル水など急伸
飲料メーカーのハルナグループは、12年第2四半期、ミネラル水など急伸

ハルナグループは、12年第2四半期、ミネラル水など急伸